

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 寿楽吉番館
所在地 (県・市町村名)	栃木県宇都宮市鶴田町2854番地
記入者名 (管理者)	齋藤 京子
記入日	平成 21年 11月 20日

(様式 1)

事業所名: グループホーム 寿楽亭番館

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創業以来の一貫した理念として、自分たちだったら、こんなホームで生活したいと当初のスタッフの意見から作り上げたもので、「一緒にゆっくりと楽しくをモットーに、地域の方々とのかかわりあいを持ちながら、毎日笑顔で過ごせるように」を基本としたサービスを目指している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフとして、理念に基づいたサービスを実践するために行動指針を定めている。朝の申し送り時は、理念と行動指針をスタッフ全員で唱えてから勤務に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入所時に家族や本人にホームの理念を説明している。また廊下にも掲示しており、いつでも誰でも見ることが出来る。運営推進会議に参加して頂いている、自治会副会長や民生委員の方々に理解を得てもらうため、ホームのパンフレットを配るなどの取り組みも行った。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所に散歩に行き、気軽に挨拶を交わしている。公園では、近所の子供達と一緒に過ごすこともある。庭には犬がいるので、餌をあげたり近所の方々が自由に出入りしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の一員としての活動をしている。体育祭や敬老会にも自治会長自ら声をかけていただき、参加させていただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所のお年寄りが散歩されている時、声を掛けお茶に誘う事もある。また体調が悪くされて困っていたので、家まで送って行った事もあった。	○	介護保険や認知症について学べる機会を設け、地域の方々と協力して生活を送っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義をスタッフ全員が理解し、自己評価を全スタッフと共に取り組んだ。評価を記入することで気づきや改善点が見つけられた。	○	評価を生かして、職員会議に回り改善できるところは改善し、質の向上に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、自治会副会長・民生委員・班の班長・地域包括支援センター、入居者の家族に参加していただいている。また、社長にも参加していただき、運営の理解・協力を説明している。	○	運営推進会議を定期的に行っていききたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月直接行き、事務的な相談や指導を受けるなど、市の職員とコミュニケーションを図っている。具体的には入居者の入退院の相談等を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の機会等があったら、学んでいきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時等にボディチェックを行うことや、入居者からのさりげない言葉に気をつけ、虐待の見過ごされることがないように注意を払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や解約時、文章により十分な説明をし、同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の会話からできるだけ思いを聴き出すようにし、受け止めている。主治医の往診時にもドクターが、不安等を利用者に聴いてくれる。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>電話や来訪時は口頭で、その都度必要に応じて、こまめに連絡をしている。毎月の請求と共に、預り金の出納状況と行事のお知らせ等を送付している。家族の面会時には、日頃の様子を報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には、家族から意見等を聴くように心がけている。運営推進会議にも参加をお願いし、意見をいただき、月一回の職員会議に図り運営に反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回の職員会議で定例的に意見を吸収すると共に、休憩時間等にも職員とのコミュニケーションを密にして意見交換し、業務に反映する様にしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜間帯の急変や、入院されている方への柔軟な対応ができる様に職員と協力し、シフトの変更など柔軟に対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職を防ぐようホームでは、働きやすい環境・休みの希望・勤務時間等、配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取り組んで行きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフが順番で毎月一回の社内研修に参加し、学んだことをレポートにして、他のスタッフに反映している。他にも、社外研修に積極的に研修の機会を確保するようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協会に加入している。また、グループ企業で設けている他のグループホーム5か所と情報交換をしている。運営推進会議録等を見せていただき、次回の会議に取り入れ、内容を充実させるような取り組みもしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1回位にスタッフのストレスが軽減できる様に食事会等を設けて、相談しやすい環境を作っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者の訪問によりスタッフへの言葉掛けでやる気がでる。管理者として、上司に向上心を持ってスタッフが勤務していることを伝えている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や入所見学時は、ゆっくり話を聴き本人の希望等を伺っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の不安や利用に至った経緯を良く聴き、受けとめ相談に応じている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在どのような生活をされ、何が不安なのか・何を求めているのかを聴き、グループホームが本人・家族に最適なのかを見極め、丁寧に時間をかけながら、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、本人・家族に来所していただきホームの雰囲気を感じてもらい、充分話し合いの上、決めていただいている。入居後は家族との連携をとりながら、ホームでの生活に始める様配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員としてではなく、一緒に「衣」「食」「住」を楽しみながら生活をしている同居者の関係を築き、利用者より学んだり、時には、励まされたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の時、日常生活の様子を口頭のみではなく、写真等を通して喜怒哀楽を共に感じていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の制限はなく、自由に来ていただいている。年一回の一泊旅行や餅つき等の行事で利用者・家族・スタッフの交流により良い関係を築いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方でも、本人・家族の了解が得られれば、訪問も受け入れ居室にて雑談をしていただき、つき合いを続けられるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話がしやすいテーブルの配置等の配慮をし、時には職員が仲立ちになり孤立しない様に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院で退所された方には、スタッフがそれぞれお見舞いに行かせて頂いている。また、亡くなられた方には、お焼香に参列しました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、1人1人の思いや意向を把握する様に努めている。困難な方には、家族からの情報や生活歴から検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、本人・家族から情報を収集したり、以前のケアマネより情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの記録や申し送りと、月一回の会議に職員全員で情報の共有を図り、ケアの統一に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や職員の意見、主治医の指示などを生かして介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変更があった場合(入院や退院後・ADL低下・病状の変化)は、担当者会議・職員会議を開き随時見直しをしている。変更後は、家族に説明をして同意を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を個人記録に記入し、また特記事項があった場合は、赤で記入し、スタッフの情報伝達の漏れがないように共有している。更に業務日誌にも記入し日々のケアに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に添ったサービスを一緒に考え提供したい。毎年、一泊の温泉旅行を企画して家族と外泊する機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回消防訓練をしそのうち1回は、消防署員立会の元に訓練・指導を受けており、利用者と共に安全に暮らせる様努力している。	○	ボランティアの導入を希望している。(目で楽しめる踊りやフラダンス。耳でも楽しめる楽器の演奏や民謡など)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループ企業の他事業所の祭りや運動会等の行事に参加している。市で行っている福祉祭り等にも参加したい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、情報を公開している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が全員のかかりつけ医となっており、医師と綿密な連携を図りながら適切な医療が受けられる様に支援している。月2回の往診時に病状の変化がみられる利用者には、家族にも同席していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に往診を受ける協力医療機関の主治医がおり、主治医の判断により総合病院への受診も勧める場合もある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を取り、訪問看護と契約をしているので、週一回の健康管理・急変時(24時間)対応していただき主治医と連携を図ってくれる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、病院の医師と看護師と話し合いを何度もして、情報交換をする様にしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針があり重度化された時は、ターミナルケアについて主治医と家族の話し合いを持ち、ホームでの受け入れ体制を整えるようにしている。実際6月にターミナルケアを行い見送った方がいます。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医と家族・スタッフが相談しながら状態の変化に対応している。訪問看護との24時間連携を図りスタッフも安心して入居者の対応に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在は無いが、今後希望される方には、情報を提供し安心して次の環境に馴染める様にしたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「プライバシーへの配慮を忘れず、尊厳ある生活を支える」を毎朝確認してケアを行っている。書類や個人情報が外部に漏れない様、適切に管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ自立を促した支援を提供し利用者様自己決定が出来るように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大まかに決まっているが、時間を区切って無理強いするようなことはせず、一人一人のペースを大切にしている。ゆっくりとした生活を目標にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着るものは基本的に本人が選んだものを着用していただいている。美容は近隣の美容室から来ていただき、希望された方は利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々テーブルで鍋やお好み焼き等を行い、目で楽しみ談話をしながら美味しくいただく。一人一人の得意な場面でテーブル拭きや食器洗い、野菜の皮むき等のお手伝いをしていただけるよう支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	近くのスーパーに本人が買い物に行き、本人が食べたいおやつ等を買うような支援もしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を生かし、個々の排泄パターンを把握して介助している。オムツ使用の方でも、時間ごとにトイレ誘導し排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきの入浴となっている。時間は本人の希望やタイミングを見て声掛けしている。入浴剤にも気を配ったりしてゆっくり入浴していただけるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、散歩やテラスで日光浴をしながらお茶を楽しんだり、ホールで体操や運動をする機会を設けて夜間良く眠れるよう配慮している。また、昼食後にも希望に合わせて、休息できる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の生活習慣や趣味等を参考にしながら現在出来ることを行っていたと共、残っている能力を引き出したいと思っている。例えば、昔を思い出し縫い物・洗濯干し・洗濯物たたみ・犬の散歩等の得意な場面を継続して出来る様支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は基本的にはホームで預かり管理しているが、お小遣いの中からおやつ等好きなものの買い物をしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、散歩に行き花を見ては「綺麗だね！」と感動されたり、近所の人と行き交うと挨拶をしている。帰宅願望のある方には、同行し外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年一回の家族と共に掛けられる一泊旅行の機会を作っている。今年は、馬頭の温泉に行き、なかがわ水遊園を見学し、道の駅で昼食を楽しむことができた。家族との外出・外泊は自由である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望された時は自分で電話をかけるよう支援をしている。年末には、家族への年賀状を利用者と一緒で作成している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に制限なく自由気軽に訪問してもらえるよう心がけている。ゆっくり過ごしていただける様に、お茶等のおもてなしをしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。身体拘束研修の参加やマニュアルがある。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	その時に応じて、危険と思われる場合は施錠し対応しています。居室やホールは日中施錠せず、テラスに自由に出入り出来る。玄関は構造上、急なスロープとスロープを降りると道路に面している為、施錠し安全を確保している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間共に、定期的に巡視をして利用者の安全・所在の把握に取り組んでいる。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬の管理は事務所で行っている。日常生活必需品の中でも危険を伴う物は、倉庫や入居者の届かない場所に収納してスタッフが管理している。その他の物(ハサミや針など)は、見守りながら支援をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生及び再発防止に関する研修に参加したり、ヒヤリハットを活用し、情報を共有して、会議等で再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の講習を受けている。緊急時の連絡網は、目の届く所に貼っている。	○	定期的に訓練を全職員が受けるようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練は毎年2回実施し、緊急時の避難に関する意識がおろそかにならないようにしている。近隣の協力を得て、訓練にも参加していただいている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にはきちんと説明している。ADLの低下や認知症状による低下によって起こりうるリスクについて、家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを通して、体調の変化に気づいた時は、訪問看護に報告し、指示をいただく又、必要に応じて、家族に連絡し受診する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の保管に、薬剤情報が入っており、薬の準備時などに、全スタッフが確認できる様になっている。症状の変化により、薬が変わった時は、申し送りノートに記載し情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常に排泄チェック・水分チェックをしている、状態により、排便困難な方には、訪問看護と連携を取りながら指示をいただき、スムーズに排便できるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。残食が残っている方や歯磨き困難な方には、一部又は全介助している。協力医の歯科医師による指導を頂くときもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記入している。適切な栄養・水分補給ができる様支援している。嚥下障害のある方には、食事形態を変えて提供し、スムーズに提供できるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の研修に参加したりマニュアルがある。毎年予防接種を施行また、手洗い・うがい・消毒の徹底に努めている。ホールにては、次亜塩素酸の加湿器を使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防等の研修を受けている。食材は福祉食の業者に発注している。夕食後は、キッチン用品の布巾等の消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇に、植木や季節の花が植えてある。庭に犬を飼っているので、近所の方や子供連れの方が自由に遊びに来てくれる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節の花や飾りつけ・季節の歌が貼ってあり、いつでも季節感を感じられるようにしている。廊下には、イベント・行事の写真を貼り思い出すようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座り、リラックスして会話をされている。また、自由にテラスに出られるので、一人で日光浴されたり、気の合った方同士で会話をされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を居室においている。家族の写真を飾っている方もいる。中には、仏壇を備えている方、木を育てている方などそれぞれの居室作りがされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節はこまめに行っている。利用者の状況により、エアコンはスタッフが管理している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階建だが、エレベーターがないため、階段での転倒に注意・見守りが必要である。階段の上り下りが運動になっているので、家族から入居前より歩行がしっかりしたと言われる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状態に合わせて、できる事を一緒に行い、役割や達成感を感じていただけるようにしている。例えば農家の方で、以前やっていた草むしりを継続して行い生活に張りが持てるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで、日光浴やお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ・洗濯物干し等を手伝う。ホーム内の花壇では、野菜の収穫を少しではあるが一緒に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・宇都宮市中央公園の南に位置する閑静な住宅街にあり、天気の良い日には、ゆっくりと散歩をしている。
- ・フレンドグループの1企業として、(株)フレンドと連携を図り、毎月1回の勉強会に参加し、質の向上に努めている。
- ・在宅医療に力を注いでいる主治医の協力がある。訪問看護と24時間医療連携が取れている。
- ・福祉車両を備え、車椅子の方でも負担なく外出できる。年1回の家族と共に行く一泊温泉旅行を企画している。
- ・自治会にも参加したり、当初より飼っている「犬」に会いに来る近隣の方の訪問も多いなど近隣と良好な関係を築いている。